

令和2年度 第1回八千代市観光振興懇談会議事録

- 1 会議名 令和2年度第1回八千代市観光振興懇談会
- 2 日時 令和2年8月7日（金）午後2時～午後3時51分
- 3 場所 八千代市役所旧館4階 第1委員会室
- 4 議題 (1) （仮称）八千代市観光振興計画について
(2) その他
- 5 出席者 **【委員】**
八千代商工会議所まち興し委員会委員長 太田 博
八千代商工会議所事務局長 鈴木 智
八千代市農業協同組合青年部部長 鈴木 広紀
株式会社JTB千葉西支店長 瀧上 富雄
一般社団法人八千代市観光協会会長 杉山 智基
京成バラ園株式会社ガーデン部部長 丸山 和彦
秀明大学観光ビジネス学部長・教授 市川 友英
市民委員 速水 清
市民委員 浜野 俊輔

【事務局】
石川経済環境部長
渡邊室長，齋藤主査，富田主事（観光推進室）
- 6 公開又は非公開の別 公開
- 7 傍聴人 3人（定員3人）

————— 開 会 —————

事務局（渡邊室長）

皆様おそろいですので，始めさせていただきます。

本日は，お忙しい中，お集まりいただきありがとうございます。本日，進行を務めさせていただきます観光推進室長の渡邊でございます。よろしくお願いたします。

本会議は「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」に基づき、公開の会議となっております。会議録作成のため、会議の内容を録音させていただきますので、ご了承ください。

そのため、個人情報に関わる事項や、特定の企業・団体に利益・不利益となる発言につきましては、ご留意いただきますようお願いいたします。

また、皆様の机の前に置いてありますが、議事録作成支援システムを使用して、議事録を作成するため、ご発言の際には、手前のシルバーのところボタンになっておりますので、こちらを押していただきます。次の方が押したら、そちらの方に発言が移りますので、そういった形をお願いいたします。マイクのスイッチを押して、座ったままでご発言をいただければと思います。

また、今回は、新型コロナウイルス対策の関係で、話しにくいかもしれないのですが、マスクはつけたままでお話をいただければと思います。ご協力をお願いいたします。

傍聴される方にお願います。会議の傍聴にあたりましては、「傍聴証」裏面の記載事項を遵守の上、傍聴をお願いいたします。

次に、配布資料の確認をさせていただきます。事務局から事前送付させていただきました、事前資料1から3の調査票、本日の配布資料として、「次第」、「席次表」、「委員名簿」、「八千代市観光振興懇談会設置要領」、「クリップ留めの会議資料」、参考資料として、「八千代ふるさと親子まっぷ」、「八千代市、京成バラ園、秀明大学観光ビジネス学部との連携協定の締結について」、「#食べよう八千代」キャンペーンチラシ、「たべちケ！八千代」啓発用チラシ、資料一覧の参考資料に記載はありませんが、新川千本桜と京成バラ園さんのクラウドファンディングのチラシが1枚ずつ、八千代市産のそば焼酎が特集されている「7月31日号の地域新聞」となっております。不足等がございましたら、お申し出いただければと思います。よろしいでしょうか。

本日の会議の出席委員は9名でございまして、懇談会の開催要件を満たしております。なお、斉藤委員及び木村委員におかれましては、欠席の連絡を受けております。

次に、新しく委員になられた方のご紹介をさせていただきます。八千代市観光振興懇談会設置要領第3条に規定されております、農業団体に所属する委員といたしまして、八千代市農業協同組合青年部長の鈴木広紀様です。

新しく委員になられた方もいらっしゃいますので、改めて本懇談会の所掌事務をご説明いたします。八千代市観光振興懇談会設置要領の第2条第2号において、本市の観光の基本的方針に関して意見交換する場となっておりますことから、今般策定を予定しております（仮称）八千代市観光振興計画につきましても、本懇談会においてご意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。

次に、本来であれば、本日ご出席されている委員の皆様のご紹介を一人ずつさせていただきますところではございますが、お時間も限られておりますので、本日お配りしました委員名簿及び席次表により、ご紹介にかえさせていただきますと思いますので、ご了承ください。

次に、事務局の人事異動についてご紹介させていただきます。4月1日付で、経済環境部長として石川が就任しております。観光推進室の方では、私渡邊が、昨年は商工観光課長でございましたが、今年から観光推進室長兼務となり、また、富田が就任しております。

これからの議事進行につきましては、懇談会設置要領の規定に基づき、市川会長にお願いします。

市川会長

それでは、これより令和2年度第1回八千代市観光振興懇談会を開会いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

早速議題に入りたいと思います。着座にて進行を進めさせていただきますと思いますので、よろしく願いいたします。

議題1（仮称）八千代市観光振興計画について、まずは、事務局より説明をお願いいたします。

事務局（齋藤）

議題1について、座って説明をさせていただきます。（仮称）八千代市観光振興計画について、昨年までの懇談会と重複する内容もありますが、新委員の方もいらっしゃいますので改めて説明をさせていただきます。

まず、資料1「（仮称）八千代市観光振興計画策定の基本方針」をご覧ください。現在、観光推進室では、本市の観光を今後どういった方向性を持って進めばいいのか、ビジョンを定め効果的に施策を進められるよう計画の策定を進めております。昨年の懇談会でもご説明しましたとおり、市川会長に計画策定の支援業務を委託し、現在一緒に進めている状況でございます。

計画策定の趣旨は、1に記載のとおり、本市の目指すべき姿を定めるために策定するものです。

2の計画の位置付けは、市の総合計画の観光部門として、具体的な施策を定める行動計画となります。

3の計画の期間につきまして、昨年の懇談会の資料では「5か年を予定」としておりましたが、総合的かつ計画的に、まちづくりを進める指針である、市の総合計画の方針に合わせ4か年とします。

4の策定の時期は、当初は令和2年度中の策定を予定しておりましたが、感染

症の影響により会議やワークショップが予定通り開催できず、懇談会や市民の皆様からご意見などをいただく機会が十分に得られないことや、感染症に伴う社会経済情勢の変化を見据えた計画とするために、市川会長に相談する中で、今年度と来年度の2年間かけて策定することにしたいと考えております。スケジュールは後ほど説明します。そのため、令和3年度は計画の策定年度ではありませんが、計画の1年目となります。

計画策定の体系は、5に記載のとおり懇談会や市民の意見、調査等を活用するものとします。

6の計画の策定は、懇談会での意見等を踏まえ、市長が決定するものとします。この計画策定のスケジュールが資料2になります。こちらの表は、懇談会と事務局の今後の大まかな事務の流れをまとめてあります。上の段の2つがA案で、引き続き会議や調査等を進められる場合のスケジュールになります。下の段の2つがB案で、今後冬場にかけて感染症拡大の影響により、ワークショップや会議等が実施できない場合を想定したスケジュールになります。

表の一番上の懇談会のA案としては、11月に2回目の会議を開催し各種調査の結果報告を基に基本方針の検討を行い、その後、来年の9月までに3回会議を開き、素案を作成していきます。その下の事務局のA案が事務局の大まかな流れです。目安としては、10月までに市民アンケートなどの各種調査やマーケティング調査としてモニターツアーを行い、その後、市内の観光に関わる事業所や団体、市の若手職員を集めてワークショップを開催し幅広く意見を募ります。そして、来年の10月にパブリックコメントを実施し、市民の方から意見を伺い、12月中に冊子まで作成することを予定しております。

日程や事務局の流れは目安ですので、感染症の影響により下の段にありますB案に変更する可能性があります。

次に、資料3「観光資源調査一覧」をご覧ください。昨年10月から、本市の有する観光資源の魅力を洗い出すために観光資源の基礎調査を進めており、その調査の一覧です。現在、裏面のNO30まで調査が終わっております。

次に、資料4「組織・団体調査一覧」と、事前資料3「観光事業者の八千代市の観光アンケート調査(案)」をご覧ください。まず、資料4「組織・団体調査一覧」は、9月から10月にかけて予定している「組織・団体調査」の一覧になります。NO1から13までは、各団体等からヒアリング調査を、NO14から20までは、事前資料3「観光事業者の八千代市の観光アンケート調査(案)」を基に、調査を行う予定であります。

次に、事前資料1と事前資料2をご覧ください。事前資料1「八千代市民の観光意識調査(案)」は、八千代市民に対しての意識調査の案で、事前資料2「八千代市近隣都市の方の八千代市の観光認知度調査(案)」は、船橋市や千葉市な

ど、近隣都市の方への認知度調査の案です。それぞれ9月から10月にかけて、調査を予定しております。また、資料配布はしておりませんが、秀明大学観光ビジネス学部の学生に対しましても、アンケートを実施出来ればと考えております。これらの調査について、10月までに調査を行うことができれば、次回の懇談会で調査結果の報告をさせていただきます。

事務局からの説明は以上になります。

市川会長

はい。ありがとうございました。

事務局の方から、今回の懇談会の位置付けや趣旨、スケジュール等々につきましてお話がありましたけれども、私の方から、補足あるいは理解が深まるようなお話を少しさせていただきたいと思っております。

まず原点に戻りまして、なぜこの計画を立てるのかというおさらいです。八千代市も、多分あと数年後に、人口減少の波が訪れてくるということですね。そういった定住人口の減少に対する、経済の地盤沈下、あるいはそれを活性化するためには、やはり交流人口、つまり、他から人を呼んで、それにより経済的な効果を図っていくことが求められているわけです。日本全国と言っていいほどの市区町村がそのような効果的な手段を用いて、交流人口の増加に邁進しているという、その中心が観光ということですね。

そのためにも、八千代市も数年後のそういった状況に対応すべく、観光の姿を計画しまして、その未来像の実現に向かって、アクションプランを実践していくべきであろうということで、この計画の策定に至ったということでございます。簡単なおさらいですけれども、その原点から始まっているということ、是非委員の皆様にもご理解いただきたいと思います。

そして計画の位置付けですけれども、先程も事務局から説明がありましたけれども、この計画の位置付けは、八千代市の総合計画の観光分野の個別計画となっております。

ただ、皆様ご存知のように、新型コロナの世界中の蔓延により、特に観光産業に大きな影響を与えているという状況でございます。東京オリンピック・パラリンピックも順延になり、また、訪日観光客も99.9%減というような形で、観光の様相が激変いたしました。

そういった中、こういった状況をできる限り現実的に見つめた中で、計画の策定に取り組むべきであろうということで、変則的ではありますが、来々年までの2年間をもって策定する変更を、案として考えた次第でございますので、是非ともご理解いただきたいと思います。

コロナの話をしましたけれども、事務局から、私が作った資料をお配りします。

今、コロナの状況から推測されるこれからの状況というものを、個人的な見解でありますので、公の資料ではありませんけれども、皆様に少しお話をして共通理解をいただければと思います。3枚資料がありますが、1枚目は2019年度、つまり昨年までの観光の現状です。2枚目は今年の新型コロナ禍での観光の状況、そして、3枚目はコロナの終息或いはウィズコロナという中でのこれからの方向性、という形でまとめております。

まず、1枚目の資料ですけれども、昨年までは訪日観光も非常に堅調に進んでおりまして、3,819万人まで数字も伸びています。今年は間違いなく4千万になるであろうという、政府のもくろみ通りに進む予定でした。そして、2030年には6千万人を旨とするという政府の案も、非常に順風満帆に来ていたという状況です。それを少し頭の隅に置いてください。

日本からの海外旅行客につきましても2千万人を突破して、ここ20年、あるいは30年程は、1,700万人から1,800万人ぐらいで推移をしていたのですけれども、それがここ1年で2千万人を突破するような活況を呈していたということですね。そして、東京オリンピック・パラリンピックが、本来であれば2020年に開催されるということでした。こういった訪日客や日本人の旺盛な旅行需要により、東京・大阪・京都にたくさんの新しいホテルができていますけれども、2年前までは、稼働率がほとんどの都市で90%以上、つまり毎日満室というような状況でした。そして、東京オリンピック・パラリンピックも開かれるということで、新しいホテルが増加したというようなところです。

また、通常のホテルや旅館だけでなく、新しい宿泊施設の台頭がありました。例えば、ゲストハウスや非常におしゃれなカプセルホテルができたり、通常のアパートとかマンションに泊まる民泊というシステムですね、これがエアビーアンドビーという、アメリカの会社が台頭してきて、約2,200万人泊程の実績を超えるに至ったというような感じですね。

この背景には、政府が非常に力を入れているということもありますけれども、先程申し上げましたように、日本の人口が2010年度1億2,800万人だったのが、今1億2,500万人を割ったぐらいですか。大体、毎年100万人ぐらいずつ減っているという状況があります。あるいは、少子高齢化ですね。出生率も非常に頭打ちになっておりますけれども、毎年生まれる赤ちゃんの数が100万を割っているというようなところ、あるいは、65歳以上の方が4分の1以上を占めているというようなところ。そして、東京の一極集中ですね。東京の人口ばかりが増えていくと。これが、2019年度までの観光と内部環境といえると思います。

そういった中で、今年は新型コロナという大変な状況になっているわけですが、先程申し上げましたように、外国人観光客は激減して昨年度比99.

9%減、つまり、ほぼゼロということですね。そして、海外旅行客の渡航が不能になっているということで、2千万人がこれもゼロになっている。海外旅行の方々が使うお金は、約2兆円から3兆円と言われておりますから、これが国内に還流してくれればまた少し違ってくると思いますが、今そんな状況であります。

そして、団体旅行の激減ですね。当然のことながら、知らない人と一緒に同じバスに乗って3密の世界で旅行をしたくないというところで、バスや飛行機、JRといった公共交通機関を利用しない形になってきた。そして、何回も話をしますが、東京オリンピック・パラリンピックが延期になっている。基本的には、来年の2月ぐらいまでに、開催するのか難しいのかという判断は迫られている。

そういった中で、観光産業の逆風が非常に今強くなっているということですね。宿泊業界、航空業界、旅行業界、バス業界、観光施設、全てにおいて非常に大変な逆風の中で、今お仕事をされているような感じですね。某航空会社は、この4月から6月で約1千億程度の赤字と言われておりますし、ここ1、2ヶ月で100近い観光関連の企業が倒産しているというような状況です。

そういった中で、このG o T oキャンペーン、東京以外でという形になっていきますけれども、実施してから非常に罹患者数が増えたということも含めて、少し逆風の中でのG o T oキャンペーンという形でしょうけれども、来年の1月まで、政府としてはやっていきたいということです。私共も、できればそういう形で観光業界に貢献したいという思いは、皆さんそれぞれあると思いますけれども、今少し如何ともしがたいような部分もあるという感じですね。

今あるのは、大都市からの離脱というところですね。感染者が少ない地域、といっても、あちらはあちらで大変な事情を抱えておりますので、なかなか難しいというところがありますけれども、ここが海へ山へという様な状況になっているのだと思います。

そういった中での3枚目、現状の観光の方向性、データ等からの推論という形ですけれども。まず、旅行は、国内回帰ですね。下にも書いてありますように、遠くへ行くよりも、近場のマイクロツーリズムに移行していきたくらうと。要は、世界の遠くから世界の近く、そして日本の遠くから近く、さらに、千葉県であれば県内、あるいは20キロ圏内での観光、あるいはレクリエーション、いうふうに帰結していくと言われております。

ですから、逆に言えば、国内旅行が活性化する可能性があるかもしれないということですね。海外旅行に行けない人達、先程2兆円から3兆円のマーケットと言いましたけれど、逆に海外旅行に行けない方が国内旅行に回帰していくというようなことも十分に考えられるわけです。そういった点では、こういったG o T oキャンペーン等々は、全体の罹患者数が減ることが前提条件でありますけれども、少しでも国内旅行の方が活況を呈してくれればいいなと思いま

す。ただ、状況としては、より廉価な旅行を選ぶという状況が、見て取れるというところですね。GDPのマイナス、これは日本だけではありませんが、ある統計によると、世界全体の3分の1の企業が今年赤字になるであろうということもあって、非常に逆風が続いているという中で、経済的に苦しくなれば、当然より廉価な旅行を選ぶようなところはあるのかと思います。

そして、海外での各国の動きは当然1年以上停滞すると。あるアンケート調査によると、海外旅行訪日は約1年半、つまり来年度の10月以降ぐらいにならないと戻らないだろうというところですね。今日のニュースで、アメリカが飛行機を少しずつ飛ばし始めると宣言したようですが、このような形で少しずつ少しずつ始まっていくのかなという感じですから、少し道のりは遠いかもしれません。

そして、一番大きいのは、東京オリンピック・パラリンピックが本当に開催できるのかどうかというところですね。これは、日本にとって、とても大きな潮目になると思います。もし、うまく開催ができれば、日本にたくさんの海外からのお客様がお見えになりますので、今までのような訪日観光客もコロナを乗り越えて、徐々に上がっていきたく思います。しかし、開催が難しいという形になれば、また停滞というような、なし崩しに飲み込まれてしまうかもしれないというようなところは否めないと思います。

旅行業界全体としましては、3密の回避、あるいは、衛生管理をしっかりやりながら安全安心の旅を、というようなところに重きが置かれているというところですね。ただ、例えば、大型バスは通常45人のシートと10人の補助シートで55人乗りですけれども、そこに満杯になるということはなかなか難しいというところも含めると、今後も非常に難しい中での旅行の実施となるのかなと思います。

そういった中で、観光産業は、当然生き残りへというようになっていくと思います。休業補償が延長されるというような朗報はありますけれども、観光産業の方々は大変な状況の中、是非とも頑張ってくださいと思っています。

旅行の形態は、家族とか、あるいは、本当に親しい人達との旅行が増えていくのではないかと。つまり、知らない人と一緒に旅行したくないというような状況があるのではないかと。ですから、今後伸びるのは、ファミリー旅行ですね。このところが、大きなマーケットになってくるのではないかと。思います。

そして、旅行の新しいスタイル、例えば、ワーケーションと言われているワーケーションとワークの融合ですね。今、オンラインで仕事をしている方がたくさんいらっしゃいますので、その方々がハワイに行って、オンラインで仕事ができるわけですね。いいかどうかは別としまして、そういった点では、新しい旅行のスタイルがどんどん出てくるのではないかと。あるいは、出張ついでに休みを取

って、例えば、タイに出張したついでに休みを取って、チェンマイまで観光してくる。そのようなスタイルが、今後増えていくのではないかと考えております。大変雑駁ではございますけれども、今の落ち込んでいる状況等々を説明させていただきました。

先程、事務局から説明がありましたスケジュールを見ていただきたいのですが、その中にワークショップの開催といくつか記載されていると思います。先程も少し触れましたが、この懇談会は少し高所に立ったご意見をいただくという形ですが、ワークショップは、こちらで選ばせていただいた有志の方20名程で様々な議論をして、新しい発想の中で、こんなふうにしたら計画は面白いんじゃないか、あるいは、こんな方向性はどうかというような協議をしてもらったところと、お考えいただければと思います。最初に現状と課題の把握をしながら、基本方針、こんな方針はどうかということを決めて、それをどんどんブレイクダウンして行って、戦略案を設定、例えば、重点取り組み事項はこういう方がいいのではないだろうか、というようなところですね。そして、それをまたブレイクダウンして、具体的なアクションプラン、戦術案を考えてもらう。それを皆さんの方にお諮りして、全体の計画の骨子を固めていきたいと思っています。

ワークショップは4回を予定しておりますけれども、令和3年度のワークショップ1回につきましては、まだ予算措置がされておられません。コロナにより大変逼迫した税収等々もありますので、予算取りができなければ、3回の中でできるような対応をしていきたいと考えています。また、ワークショップの運営につきましては、観光コンサルタントの方にもお手伝いいただく予定でございます。

年間スケジュールについて、少し補足をします。今回、A案、B案を皆さんの方に提示いたしましたけれども、B案はあくまでバックアッププランです。先程事務局から説明がありましたように、今、大変な状況にどんどん進んでおります。これが爆発的な感染状況になってしまいましたら、このような会もなかなか実施が難しいということになります。そういった場合には、来年3月ぐらいまで、すべての会議の開催を見合わせるというような形で進めていきたいと思っています。あるいは、オンライン上で会議を行うといったことも少し考えなければいけないかもしれません。

いずれにしても、そういった形で作り込みをしまして、順当にいけば、当然2年間かけてやりますので、少し早めにコンクリートをして、多少の余力を策定計画の中に少し織り込んでいきたい。例えば、観光の広域連携企画の策定、日帰り旅行はこんなふうにした方がいいんじゃないかというような、具体的なアクションプランまでを視野に入れられたらいいなと思っています。

策定後につきましては、2年後に中間チェック、4年後に今後の是正案の策定

という形をとり、世の中の流れをしっかりと掴みながら、実効性の高いものをしていきたいと思っています。

また、各調査の説明ですけれども、なぜこういうたくさんの調査をやるかという観点ですが、まず、市民の方々の観光の意識の現状を知ることがとても大事だと思っています。八千代市は、今まで観光という場面に非常に薄い街でしたので、そういう点では、今の市民の方がどのような観光の意識を持っているのかということ。そして、近隣の街の人たちはどのように八千代市の観光を見ているのか、評価しているのかということ。そして、この地域に関わっている観光の専門家の皆さんは、どのように八千代市の観光を見ているのか。あるいは、固定観念のない学生については、どのような目で八千代市の観光を見ているのか。このような重層的なアンケート結果において、そこから導き出される方向性を考えることができるのではないかと考えております。

K P I 組織人材育成について少し触れたいと思います。K P I、つまり、重要な評価指標をこの計画の中にも折り込みたいと思っています。どのような評価基準のもとに、進捗状況を確認するのかということですね。皆さんからご意見を頂戴したいと思いますが、例えば、交流人口が10万人から11万人になりましたというような数の問題。あるいは、例えば、観光協会のアクセス数が非常に増えたとか、そういった指標、そういったものを策定していきたいと思っています。

最後に、組織人材のところですが、今日も杉山様に参加いただいておりますけれども、観光協会が今年からできました。観光協会は、この観光推進室とともに、観光推進の両輪であります。そういった点では、当然のことながら、観光協会をしっかり支えていくこともとても重要だと思っています。また、民間の推進部隊も必要と考えています。この観光における人材の育成は大変難しい課題で、日本中の観光地の多くは、大変苦勞している部分でもあります。観光は、長い期間実践し続けなくては意味がありませんので、次代を担う人材の発掘は大きな課題であると認識します。

補足という形で説明させていただきましたけれども、一旦私の説明を終わりたいと思います。

議題2その他で、皆様全員から、新型コロナウイルス感染症における現在の影響、あるいは、現在ご自身の所属団体で取り組んでいることなどについて、ご意見やご報告をいただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、大変長くなりましたけれども、この議題1につきまして、皆様のご意見ございましたら承りたいと思います。

いかがでしょうか。杉山様、どうぞ。

杉山委員

八千代市観光協会の杉山でございます。

懇談会の策定スケジュールが令和3年度にかかるということでご説明をいただきましたが、八千代市の第5次基本計画の基本構想の素案のパブリックコメントが8月3日から出ておりまして、そちらの八千代市の第5次基本計画が令和2年度中に策定されるとすると、懇談会で策定する観光振興計画が基本計画にうまく入り込むことができるのか、その辺の整合性をどのように理解したらいいのかということについて、ご説明いただければと思います。よろしくお願います。

市川会長

ありがとうございます。事務局の方、いかがでしょうか。

事務局（渡邊室長）

ご指摘のとおり、総合計画については、当初の予定通りのスケジュールで策定作業が進められていると伺っていますけれども、あちらの計画は議決事項となっておりまして、スケジュールがずらせないという事情もございます。観光については、コロナの影響が非常に大きいという中で、2ヵ年でというご提案をさせていただいているわけですけれども、その他の福祉であるとか、幅広い分野における計画ということで、総合計画については予定通り策定したいということでございます。

総合計画との連携等につきましては、こちらの計画策定の途中段階ではございますけれども、総合計画の側にもご意見等につきましては反映をするという方向で検討をしたいと考えています。最終的には、整合性が図られたものということで、事務局の方は進めていきたいと考えております。

市川会長

はい、ありがとうございました。

杉山様、今のコメントでよろしいでしょうか。

杉山委員

はい。ありがとうございます。

この前出た草案を拝見させていただきましたら、観光についての部分が入っておりましたので、少し安心をしているところでございます。以上です。

市川会長

はい。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

浜野委員

はい。

市川会長

浜野様，どうぞ。

浜野委員

昨年頂いた辞令では，令和3年9月30日までが市民委員の任期となっておりますが，来年度末ということは，再度応募する形になるのでしょうか。

私としては，最後までこの計画に市民委員として参加したいと思っておりますが，任期は自動的に延長するという事でよろしいのでしょうか。

市川会長

はい。事務局，お願いします

事務局（渡邊室長）

任期は一般的に2ヵ年という設定でございまして，通常通りいきますと，ご指摘のとおり，公募ということになりますけれども，進捗状況等を踏まえまして，任期の柔軟な対応ができるのかどうかを検討したいと思っておりますが，先程申し上げたとおり，通常のスパンでいきますと，再度，応募いただくということになります。

浜野委員

期間が2ヵ年に定まったということは，それに合わせて，任期も自動的に延長すると言っていた方がすっきりするような気がします。途中で，また応募などで委員が変わるというのはいかがなものか，というのが私の意見です。応募することについては，やぶさかではありません。

市川会長

はい。では，その辺につきましては一旦お預かりをして，応募にするのか，あるいは，これに準じて延長するのかという部分につきましては，事務局の方で預からせていただくという形にさせていただきたいと思っております。

速水委員

はい。

市川会長

はい。速水様，どうぞ。

速水委員

はい。市民委員の速水と申します。

今，総合計画を策定中であるということで，基本的な質問で申し訳ないのですが，計画と予算というのは，計画に合わせた予算を組んでいくのだと思うのですが。私は民間企業の出身なので，市役所の仕組みをよくわからないのですが，いくら良い政策を作っても，予算的などころで，絵に描いた餅になりするわけですから。それなりの適正な予算措置も，必要になってくると思うんです。

総合計画の段階では，その予算付けはあるのでしょうか。予算は，あくまでも年度ごとの予算配分という仕組みになっているのでしょうか。

市川会長

事務局，お願いします。

事務局（渡邊室長）

地方自治体の予算につきましては，今ご指摘のとおり，1年毎の予算が原則でございます。その年度の税収であるとか，歳入の見込みを立てた中で，歳出をその範囲で組むという，入と出を合わせた形で，年度毎に作成をして参ります。

計画との関係性でございますけれども，例えば総合計画，総合計画の前期の基本計画，それからその下にアクションプランとなるような実施計画がございまして，こちらの方を最大限に反映させるということではございますけれども，先程申し上げましたとおり，年度の税収であるとか，歳入を前年度に見込みながらということになりますので，必ずしも計画で見込んだ事業がすべてできるかどうか，また，例えば今回のコロナのような，策定当時，想定されないような事象もございますので，必ずしも計画どおりとはいかないこともございます。

以上です。

速水委員

ありがとうございました。

八千代市は，観光振興について，どのぐらい熱意を持っているのかということだと思っております。昨年度の予算と今年度の予算がどうのとか，私はよくわからないのですが，要は，今後の八千代市のことを考えて，どのぐらい熱を込め

ていくのかというのが、一番問われるところなのではないか。そのために策定していくっていうのは、重要なんじゃないかと思うのですけれども。市民への市報を見ても、額の細かいトータルは出てこないですよ。そういうのは、何を見ればわかるのですか。

市川会長

事務局，お願いします。

事務局（渡邊室長）

予算書という形で見ると，確かに数字が羅列されているようなもので，内容がわかりにくいというような状況もあると思いますが，その他に，予算について，もう少し噛み砕いた資料を作っております，ホームページ等で公開はしてございます。見て頂くとすると，現状ではそういったところになるのかなと思います。

市川会長

よろしいでしょうか。

速水委員

はい。

市川会長

他にございますか。鈴木様，お願いします。

鈴木（智）委員

事前にいただいた，この調査票の内容とかでよろしいですか。

市川会長

どうぞ。

鈴木（智）委員

この設問は，もう決まっている内容なのでしょうか。それとも，たたき台的なものなのかを伺いたい。

個人的に思ったのですが，八千代市民に対する調査というところなのですが，その中の設問1で，八千代市への愛着はありますかという問いが最初になっております。八千代市の人口が20万人を超えましたけれども，その中で，例えば，

もともと八千代市に代々住んでいる方、八千代市に何らかの希望があつて住んだ方と分かれると思うのですね。多分、代々住んでいる方より、後から八千代市に住んだ方が多いと思います。そういった方々が、何かしらの希望を持って八千代市にお住まいになつていらつしゃると思うのですね。そういった方から、何のために、どのような希望を持って八千代市に住むことを決めたのですか、という設問があつても面白いのかなと思つたのですね。

各々のご希望があつた中で、例えば、観光的な要素もあれば、この中にも子育てとか、自然があるとか、いろいろな質問がありますけれども、そういったものが果たして希望通りだったのか、それともそうじゃなかったのか。もし希望通りでなかった場合はどうしたらいいのか、または、希望通りだった場合はそれをどう伸ばしていったらいいのかとかですね、そういうような設問があつても面白いのかなと思つたので。もし、たたき台として、まだ決まっていないうであれば、少しそういった設問も加えていただけたら、調査として面白いのかなと思いました。

以上です。

市川会長

はい。ありがとうございます。

この市民の観光意識調査につきましては、私が主体となって作らせていただきました。今いただいたご意見は、非常に観点の鋭い意見だと思います。やはり、ずっと住んでいた人ならではの発想かなとも思います。ただ、こういった意識調査の場合には、一定程度雛形みたいなものがありまして、大体その雛形にのっついていくと、傾向が非常にわかりやすく出てくる。

市民の方が何を考えているのかというよりも、観光についてどう思っているかというところなので。そういった点では、鈴木様のところにあまり寄り添っていくと、少し論点がずれていくところもありまして、大変貴重なご意見だと思います。ただ、あまり離れしまうと、というところだけのご理解いただきたいと思います。

鈴木（智）委員

ありがとうございます。

速水委員

よろしいですか。

市川会長

はい。

速水委員

私も鈴木さんのように、同じような点について関心を持っています。特に、市民の年齢別の観光意識のところに、一番興味を持っています。どんな年齢層がどんなことを思っているのか、年齢層別の質問や、八千代市に何年ぐらい住んでおられる方はどんな意識なのかなという、年齢層を含めた聞き方が、より鮮明に分析できるのではという気がいたしました。

市川会長

はい。いずれにしても、意識調査を行う対象は、ここに書いてありますように20代から70代までの男女で、アットランダムな方々という形になります。また、職業も項目に入れるというふうにあります。ただ、何年住んでいたかというところは、そこまではどうなのかなと思いますので、なかなか難しいところでは。

何年住んでいたからどうなのというのは、少し分析がしにくいのかと思うのですが、年代についてはしっかりと、例えば、20代の方がこんなふうに思っているらっしゃる、30代のファミリーの方はこんなふうに思っているらっしゃるというところは、例として出ると思います。

浜野委員

よろしいでしょうか。

市川会長

はい。どうぞ。

浜野委員

私が住んでいる緑が丘は大きな牧場があったところで、現在では、1万5千人住んでいます。たくさんの方が住んでいると、住民の意識がいろいろあり、違いますよね。新しい人たちが住んで、街づくりからですね、いい街にしたい、美しい街にしたいって思いが生まれる。そして、自分のふるさとにしたいと。

我々になってきますと、ここで墓を作る。私は、作ったわけですが。そうすると、昔から住んでいる人の意識と新しく住み始めた人の意識が違う中で、一緒の方向を目指していけるような素地ができてくる、ということがまちづくりだと。そういうものが、環境政策とか地域のまちづくり、いろいろなことに結びついて

くるんですね。いい街をつくりたい、人を呼びたいとか。ですから、そういったものの意識が取れる調査。

さっき気づいたのですけれど、昔からいる人は、こういった観光資源もお寺とかいろいろなことをやっておられますけども、我々はほとんど知らないのですね。氏神様って、僕ら新しい住民はないわけですから。古い方はそういう中で生きてきて、新しい方は全く違う世界で生きている。そういう方たちが、どういう観光政策とか、お客さんを呼びたいと思っているかと。そう思っていないかもしれない。その辺の分析ができるような資料というと、何年住んだか、何年前に引っ越してきたかということが、すごく重要なことのように思いました。

市川会長

はい。ありがとうございます。

やはりこちらにお住まいの方、浜野さんも鈴木さん、速水さんもそうだと思うのですが、そういったヒストリーもしっかり頭に入れてらっしゃって、思いとか、あるいは、そういった声とかもお聞きになっていると思うので、そういったところにどうしても重心が偏りがちになっていくのではないかと思います。

例えば、この項目の中で、八千代市は将来どのような街になって欲しいですかとか、八千代市に住んでみてどんなところに満足していますかとか、こういったところで、一定程度の切り分けができるのではないかと思います。逆に、この中に、皆さんが考えているような答えを入れて、選んでもらうというような形でもいいのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

浜野委員

比較的新しく住み始めた方がどう思っているか、どこで切るかは別にしてですね。あるいは、もともと住んでいた方がどういうふうに思っているかというような切り口があってもいいのかなという意味です。

市川会長

わかりました。

例えば、一番初めに、この街に住んでどのぐらいか？という問いを入れておけば、一定程度の切り分けができていくっていう形になりますかね。

浜野委員

そうですね。鈴木さんが仰っていたような、理由は何だったとなると、分析が複雑になってしまいますので。

市川会長

多岐に渡ってしまいますよね。どのぐらいの居住年数で区切ったほうがよろしいでしょうかね。

太田様、いかがですか。

太田委員

膨大な分析になってしまいうでしょう。

市川会長

そうなんですよね。なかなか難しいんですよ。

太田委員

私共は、源右衛門祭の時に、毎年必ずアンケート調査をするんですよ。そして、源右衛門祭の時だけではなくて、どーんと祭の時にも行うんですよ。ところが、祭りに来た人の意識調査しかできないわけですよ。例えば、すでに源右衛門祭は知っていますかとか、そういう資料は毎年結構あるんですよ。ただ、幅が広がっていかないのは、そういう祭りの会場でしかやっていないっていうところが、一つのミスなんですよね。

例えば、こういう調査をどれぐらいの規模でやって、年齢層をどうするのかっていうのもあって、膨大な量で大変なことですけど、そこまでやる覚悟があるのかっていうことですよね。予算があれば、いくらでも広げられるでしょうけれど、どういう形でやろうかということもありますし。設問についても、もっと広げてもいいだろうし、やはり予算によって違ってくるんじゃないですか。

市川会長

まさになかなか難しいところなのですけども。

基本的に、観光意識調査の場合には、400～500のサンプルの中で、全ての年齢層から、あるいは職業からという形で、項目数もあまり多いとほとんど書いてもらえないこともあるので、20前後で、先程も申し上げましたように、一定程度の必ず聞かなければいけない項目がないと、他の街と比較しても違うデータが出てしまうというところもありますので、そういった点では、それにのっかって、今回作らせていただいています。

浜野委員

半年ぐらい前にシティプロモーションで、近郊で同じような境遇と言いますか、海老名や戸田、多摩とか、八千代市と同じように通勤圏内で、元からあった

街がベッドタウン化した都市がシティプロモーション課を設けたり、行ったアンケートとよく似ているんですね。細かい項目は、全部はわかりませんが。その辺は、参考になさったのでしょうか。同じような境遇と言ったらおかしいですけど、郊外都市でベッドタウン化して開発した都市が、観光政策やらシティプロモーションをやるために行ったものを、ご覧になったのでしょうか。

市川会長

戸田市とかですね。戸田市は、シティプロモーションで大成功をしています。当然のことながら、首都圏を囲むこの街の特性を基本にして、同じような都市、戸田もそうですし、海老名もそうですけども、参考にさせていただいております。

浜野委員

特にそこと大きくは変わらないと思いますけどね。八千代市もね。

市川会長

はい。議論を戻したいと思うのですが、皆さんどうでしょうか。

何年住んでいるかという項目を、この中に入れる方がいい。ただ、その年齢層って非常に難しいファジーな部分があるのですけれども、どのぐらい住んでいる方がそこに該当するのかっていうのは、なかなか難しい切り口ではないかと思うのですけれども。皆さんの思いはわかるのですが、他に意見等はございますでしょうか。なかなかこの辺の答えが難しいかと思いますが、事務局の方から意見ございますか。

事務局（渡邊室長）

はい。委員の皆様から、大変貴重なご意見をいただいているのですけれども、会長からお話がありましたように、観光の観点というところで見ただけで、項目があまりぶれ過ぎないような範囲で、調整ができればいいかなと思います。

この計画に限らず、市民満足度調査であるとか、各種アンケート調査を実施しております。まちづくり全般ということであれば、例えば、総合計画の中でも意識調査を行っております。今回は、観光の計画に資する調査ということでございまして、今のご意見については、会長と相談させていただき、よろしければ預らせていただければと思いますがいかがでしょうか。

市川会長

はい。私の方もどういった切り口でずっと住んでいらっしゃる方と、というのは、ちょっとわかりにくいところがありますので、それにつきましては、少し預

からせていただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。

速水委員

はい。よろしいかと思うのですけれど、私は、5年、10年、15年以上、の3つぐらいに分けてアンケートを取ればよろしいのかと思います。

市川会長

はい。前提条件として、今、速水さんが言っていたことも含めながら、一番初めに条件を入れれば、基本的には切り分けられるだろうというところで、これについては預らせていただきたいと思います。

他の皆さんもよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

市川会長

ありがとうございます。他にはございますか。

他に意見がなければ、議題2その他について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局(齋藤)

前回会議以降の観光推進室の主な取組みについて、ご紹介いたします。

まず、お手元の「八千代ふるさと親子まつふ」をご覧ください。こちらは、昨年の懇談会で委員の皆様方からご意見をいただき、今年の3月に作成した改訂版になります。2万部を作成し、市内の公共施設や県内の観光施設等で配布を行っております。

次に、「八千代市、京成バラ園、秀明大学観光ビジネス学部との連携協定の締結について」の資料をご覧ください。こちらは、4月2日に三者間で連携協定を締結した後に、報道資料としてプレスリリースしたものになります。

観光振興に関する産官学の連携協定は、県内初の試みとなります。連携・協力する事項につきましては、こちらに記載の通りとなりますが、今後は、三者の連携内容の具体化、及び、組織同士の一層の連携強化とともに、秀明大学観光ビジネス部の知識や情報、経験、人材を活かし、八千代市や京成バラ園のブランド力を高めることで、市民の愛着度向上や集客、観光交流人口の増加に取り組んでまいります。

次に、富田の方から説明をさせていただきます。

事務局（富田）

お手元の資料をご覧ください。こちらは、今八千代市内で行われている飲食店応援キャンペーンプロジェクトになります。

まず、「食べよう八千代」について説明をさせていただきます。こちらにつきましては、テイクアウトやデリバリーを行っている飲食店で、それらのお店をご利用された市民の皆様に#（ハッシュタグ）食べよう八千代をつけて、SNSで投稿していただき、周知、拡散を図っていくキャンペーンになります。また、テイクアウトやデリバリーに対応している飲食店につきましては、市が運営している観光ガイドアプリ「ココシルやちよ」で紹介をさせていただいております。

もう一つは、たべちけ！八千代プロジェクトです。こちらは市が後援を行っているプロジェクトになります。チラシを見ていただきたいのですが、一口3,000円から飲食店を支援することができまして、支援していただいた方には、3,300円分の食事シート、他のプロジェクト参加店で使える最低200円の共通券、こちらは飲食店によって変わってきます。また、プロジェクト参加店全てのお店で使える特典チケットが発行されます。どちらもお得なプロジェクトになりますので、是非ご利用ください。

以上です。

市川会長

はい。ありがとうございました。

事務局から説明がありましたけれども、これらのことで、ご意見等ありますでしょうか。

丸山委員、三者連携協定とかその辺について何か、よろしいでしょうか。

丸山委員

はい。大丈夫です。

市川会長

はい。ありがとうございます。

浜野委員

質問。

市川会長

どうぞ。

浜野委員

市のカウンターでもらって帰って、聞こうかなと思っておりました。わかりにくいですけれど。「#食べよう八千代キャンペーン」と、「たべチケ！八千代」は、連動していますよね。「たべチケ！八千代」は、3,000円でチケットを購入すると、3,300円分、1割増しが使えるということで。こういう時期だから、食べようキャンペーンをやっていますよっていうことですね。我々市民には、どうして欲しいのか。3,000円出して、登録している店に行き、チケットを購入してくれと。共通店で使えますよと。300円分プラスになって使えますよと。こういうことを言っているんですよね。違うのですか。

市民はどういうふうな行動をして、どう協力したらいいのかとか、非常にわかりにくい。私はわからないっていうか、そのお店がどこにあるのか。

事務局（冨田）

「食べチケ！八千代」についてですが、このプロジェクトを始めるにあたって、セーブフード協会というものを立ち上げて、こちらで参加店を募集しております。

市民の方のご協力の方法につきましては、登録しているお店で、一口3,000円から食事券を買っていただきます。3,000円をお支払いいただきますと、300円上乗せされた食事シートがもらえる形になります。また、それ以外に、このプロジェクトに参加した全てのお店を盛り上げていきたいという思いが、プロジェクトを作られた方にありまして、追加で共通券を発行しました。こちらの共通券については、他の店で使えるものになります。また、特典チケットについては、お店によって内容が違うのですけれども、全てのお店で特典がもらえるという内容になっております。

浜野委員

市民としては、どこに行き、購入して、どういう風に協力をしているのですかね。うちの妻もこういう話は聞いたことがないって言っているのですよ。

事務局（渡邊室長）

飲食店応援キャンペーンということで、今回は、コロナウイルスの関係で、飲食店が非常に影響を受けているという中で、最初の「#食べよう八千代キャンペーン」、これは市の方で始めたキャンペーンです。こちらについては、八千代だけではなく、近隣市の船橋市や習志野市でも、同様のキャンペーンを実施して、各市で実施することによって、連動というより、相乗効果を、みんなで飲食店を

応援しようというものです。

市民の皆さんからは、デリバリーを行っているとか、テイクアウト、飲食された写真等を、SNSで発信していただいて、広く拡散する。これによって、お店がキャンペーンに参加しているということを紹介していただく。市が発信するのではなくて、市民、飲食店のそれぞれが発信していただくというキャンペーンになります。

時期を少し遅らせて「たべチケ！八千代」、こちらについては、飲食店の方々を中心となって実施をしている事業でございまして、こちらについては先程申し上げた通り、八千代市は後援という形で、周知の方を主に実施しております。こちらの参加店については、紙面の都合上等ございまして、直接掲載はしていませんが、ホームページ、その他でどういったお店が参加しているかというのは見ていただくことができます。その参加店に直接行くだけではなく、インターネットでご購入もできるのですけれども、飲食店を応援してくださいという、飲食店側の方々を中心に実施している事業でございまして。

観光との関係ということで申し上げますと、観光と商工は、課も現在一緒でございまして、どちらも密接な関係がございまして。観光産業という中で、直接飲食店は結びつきが考えにくい部分もございましてけれども、都市型観光の中で、飲食店というのは、重要な部分を担っているのではないかとこちらでは考えております。コロナ禍におきまして、飲食店の方々には頑張ってください、事業継続を是非いただきたいと考えております。そういった中で、市としてこの事業の応援をさせていただきます。

市川会長

よろしいでしょうか。

浜野委員

例えば、飲食店っていっぱいあるじゃないですか。チェーン店もあるし。大から小まで、独自で頑張るところもあるだろうし、そういう全体の動きが、我々に伝わってこない。こういう方法をとっていますとか、こういうシステムにしましたとか、何か動きというものが。

キャンペーンをやっておられるにしても、市民の中に入ってないんじゃないかと。やっていますということだけであって、それがどういう成果があって、どうなっているんだというのが、何か見えないうか。これは、私がそういう知識がないからかもしれませんけど。見に行くって、ホームページを見に行くとか、そうでない部分が、こういうものの中に伝わってこないといけないんじゃないかと思いました。

事務局（渡邊室長）

外出自粛という最中におきまして事業を立ち上げたということで、基本的には、アナログの啓発の媒体はあまり多く使ってございません。インターネットを中心とした啓発ということで、場合によっては、そういったものになじみのない世代の方には伝わりにくい部分もございます。こちらのチケットは、飲食店の方々が中心となってやっているということでございまして、それぞれの飲食店が他店にプロジェクトを紹介したりすることで進めております。実際には、代表の方がおそば屋さんでございまして、その方が直接お店に行ったりとか、連絡を取ったりとかして、一緒にやりませんかというような形でその他の参加店を募っているというような形で実施をされております。

太田委員

はい。いいですか。

市川会長

太田様、どうぞ。

太田委員

説明はわかるんですけど、お年寄りにはガラケーしか持っていないくて、SNSがわからないという問題じゃないかなと思うのですよね。要するに、検索がそもそもできないってこととか。

私は、このキャンペーンは、今どういう反響があるのかなってということが聞きたい。例えば、市内の飲食店が何店舗参加していて、5%、10%の売り上げが上がりましたとか、そういうのをこの辺で聞かせていただきたいなと思うのですよね。

市川会長

事務局、そういったデータはありますか。

事務局（渡邊室長）

はい。「ココシル八千代」の方で、「#食べよう八千代キャンペーン」を始めてございまして、「ココシル八千代」のアクセス数というところで、データがございます。例えば申し上げますと、実施する前の3月のアクセス数が1,675。「#食べよう八千代キャンペーン」は4月に入ってから実施したのですが、4月のアクセス数は、1万1,634となっております。これだけの効果かどうかは

実際のところわからない部分もございますが、この「#食べよう八千代キャンペーン」については、「ココシル八千代」のアクセス数というところで数字的には見えるのかなと思っております。

実際のお店の方の売り上げについてですが、チケットの方は、まだ実施中でございます。長い期間で、来年の8月まで使えるということで、そこら辺の数字の方も、今後教えていただこうかなと思っておりますけれども、まだまだ長いキャンペーンでございますので、皆さんも是非、わかりにくいというご指摘もございますけれども、チケットの方も応援をいただければと考えております。

市川会長

はい。他にございますか。よろしいでしょうか。

それでは、先程申し上げました通り、皆様から新型コロナウイルス感染症による影響、あるいは、現在ご自身の所属団体で取り組まれていることなどについて、時間の都合上、手短にお1人ずつご報告をいただきたいと思っております。着座で結構でございますので、順番でお願いしたいと思っております。

では、太田副会長の方から、どうぞよろしくお願ひいたします。

太田委員

私どもの年間事業は、金額にしますと約八百万から1千万近い事業を行っているんですけど、今年は、まだ今のところゼロでございます。イベントも全部中止ですので、これからも今年1年は無理でしょうということになります。

私どもは、里山の整備と源右衛門祭で鍋をやっております、その食材は自分のところで供給できるように作ろうということで、畑はやっております。毎週水曜日に活動しております、今、会員数が120人ぐらいいますが、作業したりする人は大体20人程度です。今は、コロナの影響もありまして、14から15人ぐらいで毎週欠かさず活動しております。いつでもやれるようにということで、作物もそれなりに作っております。また、里山の整備も結構ありました。

去年の台風の影響で桜が倒れたということで、桜の会の皆さんにご協力をして、桜の倒木した木の片付けや枝を切ったものをチップにする作業をお手伝いしまして、大分綺麗になって、桜の会も新しい木を植えるようなことができるようになりましたので、良い協力ができたのかなと思っております。これからも、その協力はしていきたいと思っております。

以上でございます。

市川会長

はい。ありがとうございました。

それでは、八千代商工会議所鈴木様、お願いいたします。

鈴木（智）委員

私どもは事業者の皆さんの団体でありますので、今回コロナウイルスの関係で、非常に影響を受けている事業者の方がいっぱいいらっしゃいます。会議所の事業といたしましても、皆さんに集まっていただくことが多いのですが、会議を書面で行ったり、あとはできないとか、今止まってしまっているような状態です。一部は動いていますけれども、ほぼ集まっていただくことができないような状況になっています。

そういった中で、八千代市さんの方から委託という形で、今いろいろな給付金や補助金、助成金ですとか、そういった書類を提出する事業者の皆さんのお手伝いをさせていただいています。皆さん、なかなか書類を揃えるのが難しかったり、また、ほとんどWebでの申請となり、例えば、持続化給付金をWebで申請するといったこととなりますと、やはりある程度高齢の方は全くわからないということでもありますので、こちらの方にお越しいただきまして、専門家の先生である中小企業診断士の方や社会保険労務士の方においでいただきまして、こちらの方で書類作成のお手伝いと、Webで申請する際のお手伝いをさせていただいております。延べ何百件と相談をいただいております。来られた皆さんには、非常に喜んでいただいている状況であります。また、家賃の給付金等、これからそういったものも出てきていますので、そういったことにも対応するような形で、事業活動を行っているという状況であります。

以上です。

市川会長

はい。ありがとうございます。

それでは、八千代市農業協同組合青年部鈴木様、お願いいたします。

鈴木（広）委員

我々青年部は、やはりイベントは今のところ全て中止にしております。対策しているってことではないですけど、多少遠くにも会議で行かなくてはいけない時があるので、そこに関しては、リモート会議を取り入れています。

農家のコロナの影響で、多分一番大きいのが、自粛中は学校も休みになってしまいましたし、飲食店も開けられないことになっていたのも、そこに野菜を直接卸しているところは、多分大打撃だったと思います。でも、それとは別に、やはり自粛でみんなどこにも行けなくなった分、直売所の野菜の売り上げが圧倒的に上がるんですよ。自分で料理を作ることになるので。今は、夏休みになりました

たけれど、学校給食も始まり、少しはまた安定してきたのかなと思っております。

これからの予定については、11月上旬に農業会館で祭りはやりたいのですが、これからのコロナの影響でどんな動きになるのかによろしく思います。

市川会長

はい。ありがとうございました。

それでは、株式会社JTB千葉西支店瀧上様、お願いいたします。

瀧上委員

コロナの影響で、観光産業が大打撃を受けている中、我々JTBもそのど真ん中におります。実は、ツーリズム産業の経済波及効果というのは、国内で約25兆円から30兆円あるということで、おそらく産業的には、自動車産業に次いで、もしかしたら2番目に大きい規模の産業になる。ツーリズム産業というのは、旅行会社のみならず、運送、運輸、ホテル、飲食店、お土産店、小売店、諸々がこのツーリズム産業に入ってきます。その中で、やはり人の交流がなくなると、その経済波及効果というのは、どんどん縮小していくことになります。

この懇談会の目的としては、定住人口が減少する中交流人口を増やし、経済を活性化させていくというのが目的と、市川会長の方からもお伺いしておりますので、まさに我々としてはこの交流人口をさらに増やしていくべく、いろいろな努力をしなければいけない。

一方、八千代に目を向けてみますと、八千代市のいわゆる地元購買率というのが75%です。これが、地元で八千代市民の皆さんがお買い物をどれだけの割合でされているか。75%が八千代市の実態であるということで、これが高いか低いかというと、実は柏市の地元購買率というのは、85%を超えているということで、この10%の差って何なのだろう。すなわち、25%以上の方が近隣都市で消費されているということで、やはりここの経済を活性化させるためには、そこを75%から85%まであげていく。そのためには、当然、飲食店や小売業の皆様方の努力も必要になってきますが、市としての魅力、こちらを市民に訴えていく必要が大いにあるということです。おそらく、八千代市民の方も知らない観光素材が、たくさんあるかと思えます。

先程出ましたワーケーションなり、リモートワークによって、実は今、都内から郊外に人がどんどん移っております。ちなみに我々と取引のある住宅販売会社さんでは、実は、都内のマンション販売が苦戦していて、郊外の戸建てがものすごく売れているということで、実は世のサラリーマンが気付いてしまったんですね。都内で会社に行かなくても、今はもう働ける時代になったと。おそらく、郊外型の戸建ての住宅の需要がどんどん伸びていくということです。

そして、ワーケーションの観点でいきますと、やはり八千代市民の方も、都内に勤務の方がかなり多いだろうということで、今、会社としては、リモートワークを都内は7割、都の命令で推奨しています。自宅で仕事ができない環境の方もたくさんいらっしゃるということで、千葉県内で何が起きているかということ、今空前のキャンプブームにおいて、グランピングを活用し、キャンプをしながら仕事をする。こんな動きが出ていて、近隣市ではグランピング施設がものすごく拡充されています。

八千代市についても、キャンプ施設がたくさんあり、そういったワーケーションに活用できるような魅力ある素材がたくさんありますので、こういった懇談会の中で、そういった魅力をどんどん開発していければなと思っています。

以上でございます。

市川会長

はい。ありがとうございました。

グランピングは、キャンプとホテルの融合ですから、そういう点では、もっと素敵な施設ができるといいのですけれどもね。八千代市もね。

それでは、八千代市観光協会の杉山様、お願いいたします。

杉山委員

4月1日から八千代市観光協会として名称を変更し、新たに会員を募集させていただいてスタートをしたところでございます。現在、団体、個人を含めて60名の会員ということで、会員募集をした段階で、新型コロナの感染拡大がありましたので、ちょっと伸び悩んでいるという状況でございます。

八千代八福神巡りという事業、歴史散歩という事業があるのですけれども、新型コロナの影響で開催ができていない状況でございます。マイクロバス等でツアーを組む計画だったのですけれども、バスでというのが非常に難しいので、今レンタサイクルやシェアサイクルの業者さんと打ち合わせをさせていただいて、八千代市内の駅や主要な観光施設に、レンタサイクルのステーションを設置していただくよう観光協会として推奨していこうとなっております。

新川千本桜まつりという実行委員会に大きく関わっておりまして、今年は、新型コロナの関係で中止にせざるをえなかったのですけれども、来年3月の祭りに向けて準備を始めているところです。来年3月は、やはり新しい生活スタイルの中で何とかお祭りができないかということで、形態を少し変えて、新型コロナの中でも開催ができるように、準備を進めているところでございます。

以上でございます。

市川会長

はい。ありがとうございました。

それでは、京成バラ園株式会社ガーデン部の丸山様、お願いいたします。

丸山委員

コロナの影響ということですが、今年の春の場合、特にバラの最大のシーズンの5月に、バラ園は1日も開園することができませんでした。5月で、約8万人のお客様に来てもらえなかったと考えております。同様に、それに付随するお土産さんに位置付けするローズショップ、あと、バラ園を見てバラ苗を購入していただくガーデンセンターにも、大変大きな影響を受けました。ようやく6月に入って、電子チケットの前売りのみで、検温と人数制限をし、ようやく開園することができました。その状況を見ながら、徐々に当日券も販売させていただいて、三密に気をつけながら開園していったということが、今年の春の状況です。

電子チケットのみの場合の時には、入場制限をかけたのですけれども、その人数まで達しなかったというのが現状です。最初、午前250人、午後250人ということで設定して販売をしたのですけれども、4日間のうち、250人を超えることはなかったです。

なぜ250人かというのと、バラ園に入ってしまうと、250人は全然密になるような人数ではないのですけれども、今までの従来の5月の繁忙期のバラ園は、入口付近で相当混んでしまう。そここのところを避けるためには、やはり250人という数字を設定させていただいて、実際に200本のラインを引いて、最大並んでいただいても大丈夫のような準備に取り組んだのですけれども、やはりそこには電子チケットの壁というものがあつたのかなと思います。

電子チケットが悪いわけではなく、決済も簡単ですし、対面でなくて済みますし、良い面もたくさんあるのですけれども、やはりバラ園の場合、高齢の方が多いので、なかなか電子チケットをスマホから購入するというのがわからない、できない、面倒くさい、そういう方がやはりおられたのかなと思っています。長所もあれば短所もあるというような状況です。また、当日券の販売を始めると、やはり圧倒的に当日券で入場していただく方が多いというような状況も、今回わかりました。

現在、バラ園の方は夏バラが見頃で、とても良い状態になっております。コロナの影響で5月は開園できないというのが、4月の段階でわかっていましたので、4月に例年よりちょっと多めに開花調整をして、6月に花を見られるような操作をしたので、夏バラが少し遅れて、今ちょうど見頃というような状況になっております。

一方、店頭の花センターの7月の状況ですが、7月は長雨の中、

前年比140%というような好調ぶりでした。一つは長雨でも大雨が少なく、暑くなかったので、店舗に皆さん来ていただけたというような状況と、あとやはり、5月に通常のように販売することができなかったバラの苗が、例年に比べて豊富に店頭にあったというようなこと。また、行動が制限されている中、おうち時間を過ごそうという方が多く、植物を育ててみようかというような方が多かったのかなと感じております。

実際、5月の通信販売の売り上げは、例年になく非常に好調で、しかも、初心者の方が多かったと通販の担当から聞いております。同業他社も、バラの通販は、今年は良かったねっというような話を聞いております。

以上です。

市川会長

はい。ありがとうございます。

それでは、速水様、お願いいたします。

速水委員

先日、テレビで見た星野リゾートというところの会長さんが仰っていたんですけれども、コロナを悲観的に見ないで、ポジティブに、今まで海外へ出ていた観光の需要を国内に向けることによって、逆に言うと、国内の観光を振興させるチャンスになる、という考え方もできるのじゃないかと。コロナがもう少し納まればという前提でしょうけれども。確かにその通りで、観光を振興させるというのは産業の部分、交通、旅館も含めて、重要な観点だと、私も痛感いたしました。

観光を振興するにあたって、私は今、里山活動を細々とやっているわけなんですけれども、先程浜野さんからお話を伺ったように、駅前でもバラを育てているというようなことと伺いますか、市民の環境なり、観光に対する意識を高めていかないと、お客さんを外から呼ぶということも、ただ何か安くなったよとか、おまけをつけるよということと呼ぶのではなくて、その素材、素地となる八千代市全体の市民の意識を高めていく必要があるのじゃないかと痛感いたしました。

私は、京成勝田台がいつも乗り降りをする駅ですが、京成勝田台駅は浜野さんのやっている駅と大違いでして、ほとんど緑らしきものもないし、最悪なのは、トイレが非常に汚いのですね。八千代市の指折り数えるほど、ワーストに入るようなトイレです。

私の自宅の近くには、TOTOというトイレの大きなメーカーの工場がありまして、そういう意味では、八千代市のトイレはTOTO、流石にTOTOがある市だと思われるぐらい綺麗なトイレを提供することが、市民として、自慢のできるようなトイレを提供できるということも一つの発想だと思うのですけれ

ども。そういったところも、基本となる市民の発想といいますか、意識がまだ低いのではないかなと痛感いたしました。

ちょっと話が支離滅裂ですが、以上です。

市川会長

はい。ありがとうございました。

最後になりますけれども、浜野様、お願いいたします。

浜野委員

資源調査一覧の2ページ目の28番、緑が丘の駅から京成バラ園までの遊歩道ということで、現在1.1キロ、丸山部長のバラ園と繋がっている駅の北口、その下の29番に北口広場のバラのライトアップが書いてあります。今日、資源調査に入っているのを見ましてですね、これは帰って仲間が大変喜ぶと思います。ありがとうございます。

この2つについて、お話してみたいと思います。以前もお話したかもしれないですけども、3年前に順番制で新しい町の自治会長になりました。当時、八千代バラの会という、大澤市長時代から頑張っていた方達がおられました。村上や八千代中央の駅が開通したので、そこの駅前を綺麗にしようと。もともと綺麗な駅ですから、駅前広場を借りて、土木管理課から、里親制度で。これは、諸事情で地元の人がほとんど参加しないで、私が会長をやっている時に、もうバラの上に草が覆いかぶさって枯れていたんですね。皆さん、市に返そうか、これは持たないということだったんですが、いろいろな方が自治会で取り上げて頑張ってくれということで、16名が半年ぐらいでやろうじゃないかという機運になったので、これはいけるということでスタートしたのが、2年前の10月でした。約2年になります。自治会館で集まっていたいて、スタートした時、いろいろなできない挫折した条件が、出てきました。人を集めなければいけないということもあったのですが、市に要望すべきものは何だろうか。まず、水がないということで、市の土木管理課に申請を上げました。

すると、そういうことで再生するのであれば、せっかくボランティアの人がバラをここまでやってきたんでということで、ロータリーの土木工事をやっていただきました。下から水を引いて、我々が水をまけるような状態にしてもらいました。水道料金はボランティアで出してくださいよということで。水やりは、週に2回当番制でやっております。これが、非常に楽になった。

また、北口広場は線が通って、ライトが付くようになっているのですが、時計台のところだけライトがありまして、あとは下に続いていない。これは、土木維持課になるのですよね。もっとライトアップができたのに、断線して、そのまま

になっているのを工事をしてもらおうという申請を上げました。今年の3月に、ライトは市でつきました。

それから、用具をみんな家から持って来ていた。除草やいろいろな用具をですね。これが大変だと。資材置き場が欲しいと。地元の有志の方で、駅前のビルの1階に用地があるから、ここで何とかということ。いろいろな関係者の方が、市民が動くことによって、市あるいはいろいろな方が、我々はできないことをやってくれる。

我々ももっと集めないといけないということで、2年間で、63名のボランティアの方が集まりました。実働は月に1回、第3土曜日にやっております、大体半分集まってきました。今日、ボランティアを北口の所でやっている写真を仲間が撮って、そこにバラを165本植えました。来年3月で、約265本になります。それもバラ園さんの責任者、ガーデン長にバラ園から来ていただいて、指導していただいたその通りにやっております。いろいろな助成金も申請して、それは私の係ですが、100万近いお金が使えるような団体になりました。人とお金と行政の協力が非常にうまく、今はいっています。最初は、どうせボランティアなんて続かないと。みんな癩だから絶対続けるんだという気持ちで、今やっております。

今年は、ローズフェスタの17回目がコロナで中止になりまして、何かしようということでローズフェスタの委員会メンバー、30人いるのですが、ライトアップしようじゃないかと思って、北口のバラがせっかく良くなったので。市もライトを3月末で引いてくれまして、土木維持の課長が来られて、君たちに任せると、キーを預けてくれました。好きにやっていいことではないのですが、責任を持ってやってくれればということで。夜7時から10時まで、5月7日から6月20日過ぎまで、1か月半やりました。市の広報の一面に、6月15日付で掲載していただきまして、我々市民も、見学に相当数夕涼みがてら出てきていただいて、仲間も10個くらいベンチを作って、そこで座ってみるとか、本当に良い環境で。先程ここに入った途端に、市川座長から「素晴らしいですね」って、多分ご覧になられたのだと思うのですけれど、褒めていただいて、非常に励みになります。

そんなことで、我々仲間で言っているのですけれど、何か大きな名前をつけようと、日本一の駅前バラ広場と、どこが日本一なんだって言ったら、もう比較のしようがないからいいのだと。我々が聞いた範囲では、山梨県の石和とかですね、それから福山が素晴らしいですね。100万本のバラが3年前に完成しましたが。今、いろいろな素晴らしい所があるのですけれど、比較資料がないので、日本一の駅前バラ広場でいこうということでやっております。

それからもう一つ、28番目に書いていただいた京成バラ園までの遊歩道と

いうことで、これもまもなく完成するので、あとはメンテが大変だけど、メンテはもう今のボランティアで大丈夫だろうと。今、当番制3人で週2回、水やりを1時間ぐらいやっておりますので。僕らは、日本一の京成バラ園と言っているのですけれども、緑が丘地区の仲間に聞いても、勤めていた会社のいろいろな人に聞いても、八千代というのは、京成バラ園だなという。他はなかなか出てこない。新川とか、千本桜というのは、なかなか東京とかそういうところでは出てこない。やっぱりここに住んでいればということで、バラ園さんの1.1キロの遊歩道に、バラが一本もないと。これは我々の力で、バラを植えようじゃないかと。今、看板はいろいろあるのですけれども。ということで、市の土木管理課長、公園緑地課長にもご相談し、それから緑化公社、バラ園さんにもご相談し、東葉高速さんにもご相談して、10人ぐらいで2度現地調査をしまして、ピンポイントで27か所の占用許可を出しました。図面をもらって図面を引いて、7月27日に服部市長から占用許可が3年間おりました。それについては、91本プランターと煉瓦ガーデン、地植えを、今のボランティアプラス沿線の住民の自治会に声をかけて、植えていこうと。予算計画はなかなか厳しいのですけれども、これからもいろいろな助成金を活用してやっていこうとしています。お金が要るといふことと、人がいるといふこととでございます。それから行政の支援があるといふこと、これを2年間やった結果ですけれども、たかだか2年ですけれども、気持ちも通じ。

市川会長

浜野様、手短にお願いします。

浜野委員

そういうことで、何が言いたいかといふと、観光政策、観光をやっていくときに、基本的には行政の後姿、行政の本気度、それと、地域住民、やる人たちの本音が伝わる熱、熱意が伝わる、行政が後ろ姿で引っ張ってくれると。できない理由ではなく、できることを一緒に考えようといふだけでいい。そういうことで、仲間と一緒にやっております。それが、この観光政策、1個1個実現するために一番継続するといふようなことじゃないかと思っております。

以上です。

市川会長

はい。ありがとうございました。

これで一通り皆様からご意見やご報告をいただいたところでございますけれども、今ご報告がありました件で確認したいこととかがあれば、この場で承りたいと思っておりますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ご意見なければ、事務局から連絡事項はございましょうか。

事務局（渡邊室長）

本日はアンケート調査の件、また、只今ご報告いただきましたコロナ禍における活動の状況、その他、大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。皆様からいただきましたご意見を参考といたしまして、今後計画策定を進めて参りたいと考えております。

また、今回の会議でございますが、11月13日の金曜日を予定しておりますけれども、新型コロナウイルス感染症の状況によりまして、予定がずれ込む可能性がございます。開催は決まり次第、また改めてご連絡をいたしますので、よろしく願いいたします。

市川会長

はい。ありがとうございます。

それでは、本日の議題はすべて終了いたしましたけれども、最後に私の方から一言だけ。今こういったコロナの中で、皆様からのご報告も含めて、大変な状況だと思いますけれども、実は私自身は、八千代市の観光にとって、このコロナのことは逆風ではありますけれども、少し観点を変えると、すべての逆風ではないなと思っています。というのは、まず、先程何人かの方から話がありましたように、八千代市は、基本的にマイクロツーリズム、つまり日帰り観光なんですね。遠くよりも、近くにお客様がお見えになる。先程、瀧上支店長の方からも多々お話がありましたように、この方々をしっかりと、八千代市の様々なコンテンツに参加してもらおうというところと、ファミリーが中心になりますので、そういった点も、非常に八千代市のコンパクト感というのは、非常に価値があるのではないかなというところ。あるいは、公共交通機関ではなくマイカーで来る方が非常に多いので、そういった点でも、八千代市は16号を基本にして、非常に交通の利便性があります。私はそういった点では、八千代市の観光というのは、日帰り観光という観点から見れば、全くその逆風の中を進むという形にはならないのではないかなと個人的には思いますので、最後に一言だけお話をさせていただきました。

それでは、これで令和2年度第1回八千代市観光振興懇談会を閉会させていただきます。大変長い間、ありがとうございます。本日は、忌憚のない積極的なご意見を頂戴致しまして、本当にありがとうございます。これにて、閉会いたします。

————— 閉 会 —————